

細胞一般生理学(環境生理学)

科目到達目標: 1) 恒常性維持とその調節機構を説明できる
 2) 体温調節と発熱発現のメカニズムを説明できる
 3) 体液PH とその調節機構を説明できる
 4) 体内リズムとその調節機構を説明できる
 5) 微小重力・無重力環境での生体適応機能を説明できる

科目責任者(所属教室): 渡邊 達生(統合生理学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	11/30(水)	2	421	恒常性維持	渡邊 達生	統合生理学	生体の恒常性維持と適応を説明できる。	恒常性維持、適応、内部環境、外部環境、調節系
2	12/14(水)	2	421	恒常性維持のための調節機構	渡邊 達生	統合生理学	恒常性維持のための調節機構を説明できる。	神経系、内分泌系、フィードバック調節、受容器、効果器、神経伝達物質、ホルモン
3	12/21(水)	2	421	体温の恒常性維持とその調節機構(1)	渡邊 達生	統合生理学	体温の恒常性維持とその調節機構を説明できる。	体温、熱産生、熱放散、温度受容器、視床下部、セットポイント
4	12/26(月)	4	421	体温の恒常性維持とその調節機構(2)	渡邊 達生	統合生理学	発熱とその発現機構さらにはその意味を説明できる。	発熱、LPS、インターロイキン、プロスタグランジンE、視床下部、生体防衛反応
5	1/11(水)	2	421	体内リズム	渡邊 達生	統合生理学	生体機能や体内環境のリズム性変化を説明できる。	体内環境、リズム、視交叉上核、生物時計、メラトニン
6	1/16(月)	4	431	体液PHと緩衝系(1)	稲垣 喜三	麻酔・集中治療医学	体液PHの重要性和緩衝系を説明できる。	pH、アシドーシス、アルカローシス、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式、緩衝系、重炭酸塩、血漿タンパク、ヘモグロビン
7	1/23(月)	4	431	体液PHと緩衝系(2)	稲垣 喜三	麻酔・集中治療医学	体液PHの異常とその代償機構を説明できる。	呼吸性アシドーシス(アルカローシス)、代謝性アシドーシス(アルカローシス)、呼吸性代償、腎臓による代償
8	1/25(水)	2	431	宇宙環境への適応	河合 康明	適応生理学	特殊な環境における適応と不適応を説明できる。	宇宙環境、微小重力、宇宙酔い、体液移動、起立不耐性

教育グランドデザインとの関連: 2

学位授与の方針との関連: 1

評価: 定期試験 100%